

報告書

磯野 文香

2015年6月

今年の秋より University of California, Berkeley, Applied Science and Technology に進学することになりました磯野文香です。ここでは私が学位留学を思い立った理由と、カリフォルニア大学バークレー校への進学を決めるまでの経緯を紹介したいと思います。

1 学位留学を思い立った理由

以前から世界トップレベルの海外の大学で勉強、研究をしたいと希望しており、修士1年にカリフォルニア大学バークレー校で一年間交換留学する機会を得ました。この時は Visiting Student Researcher として物理学専攻の研究室に所属し、9ヶ月間、非中性プラズマ、及び反水素の捕獲に関する研究を行いました。また、交換留学直後の夏には、バークレー校で所属していた研究グループの関係で、スイスのジュネーブにある欧州原子核研究機構 (CERN) で反水素捕獲の実験に参加しました。これらの経験から、世界中からやってきた志の高い研究者と切磋琢磨しあえることにすばらしさを感じ、海外での研究スタイル、ライフスタイルも、私に合っているように思えました。また、海外の大学院留学では奨学金や大学での RA 制度などを活用すれば、経済面でのサポートもあり、研究だけに集中できる環境も魅力的で、海外での大学院留学を決意しました。

2 出願準備、結果

留学中は留学のことに専念することに決め、帰国した2014年7月中旬から出願準備を開始しました。しかし、留学直後だからと過信して何も対策をせずに受けた TOEFL の点は交換留学前よりも低く、スタート早々出遅れて大変後悔しました。TOEFL の点はなかなか上がり、2015年2月に100点以上取るまで何度も受けることになりました。

はじめに、アメリカ、イギリスの大学院で興味のあるプラズマ物理に関連する研究室をひとつひとつホームページで調べ、特にカリフォルニア大学バークレー校とオックスフォード大学で行われている研究に惹かれ、これらを第一志望とすることにしました。カリフォルニア大学バークレー校で志望することにした研究室は交換留学中に所属していた研究室とは異なりましたが、8月に志望する研究室の教授にメールでコンタクトをとったところ大変好意的な返事が返ってきたことから、長い出願期間の早い段階から自信をつけることができました。志望した研究室は物理学部、

原子核工学部、Applied Science and Technology の3つから学生を受け入れているため、どの専攻から応募するか悩みましたが、理学、工学にまたがって好きな専攻の授業を受けることができる Applied Science and Technology に最終的に応募することに決めました。一方オックスフォード大学の方ではプラズマ物理学分野は物理学部に所属していたため、物理学部に応募することにしました。

8月から10月は、海外大学院留学のための日本の奨学金への応募と TOEFL にほとんど時間を費やし、10月には GRE を受験しました。また、11月には船井情報科学振興財団の奨学生に選ばれ、11月中旬から、大部分の大学の出願締め切りである12月中旬までは願書の作成に時間を費やしました。あまりにも慌てて留学準備を進めているようで、本当に良い方向に向かっているか不安に思うこともありましたが、船井の奨学生として選ばれた時は、嬉しかったと同時に大変ホッとしました。

年内にはアメリカの大学に願書を出し、1月に、オックスフォード大学の出願にとりかかり、それと並行してオックスフォード大学の語学要件を満たすために TOEFL を再受験しました。1月21日には、カリフォルニア大学バークレー校から内定の合格メールをいただくことができました。その後、23日締め切りのオックスフォード大学に出願するか悩みましたが、合格してから考えようと思いギリギリで出願しました。オックスフォード大学の方は、3月初めに Skype で面接を行い、3月11日には、Oxford-Berman Graduate Scholarship という奨学金付きで合格をいただくことができました。どちらの大学院に進学するか悩みに悩みましたが、決断のために現地の大学を訪問して自分で確かめることとし、結局、自分の将来の構想により適合する進路という観点で、カリフォルニア大学バークレー校に進学することに決めました。

第一志望であった二つの大学院に合格できましたが、ほかの大学は不合格でした。カリフォルニア大学バークレー校とオックスフォード大学はどちらもメールで事前にコンタクトを取り、留学の意欲と熱意を伝えていた大学でした。コンタクトの有無も影響したとも思いますが、何よりも誰にも負けない熱意を持って受験に臨まなければ、向こうもそのような学生の真剣さを感じとるのでしょうか、合格はおぼつかないように思いました。日本の大学では試験の成績で合否が決まるので、大学の「難易度」の序列がつけやすく、第一志望に受ければ第二志望も受かるという仕組みになっています。一方、アメリカの大学は総合的に判断し、大学によってその時にほしい人材も異なるので、この大学に受ければこの大学には必ず受かる、ということはないのだと分かりました。

3 最後に

留学に至るまで大変多くの方々に支えていただきました。受験を通して自分がこんなにたくさんの人に支えられて生きているのかと気づき、サポートしてくださった方々に感謝してもしきれません。大学の指導教員、推薦書を執筆してくださった先生方を始め、両親、友達、そして船井情報科学振興財団のサポートがなければ大学院留学のチャンスを得ることはできませんでした。この秋からアメリカで思う存分勉学、研究に励み、将来少しでも周りの方々に恩返しをしていけたらと思います。